

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成30年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～4）

9日に北海道の協力により上空からの観測を実施しました。各火口の状況に変化は認められませんでした。

山頂に設置した監視カメラでは、ごく弱い噴気が確認されることがありました。山麓に設置した監視カメラでは、昭和4年火口の噴気は観測されませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図5）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図6）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年11月分）は平成30年12月10日に発表する予定です。

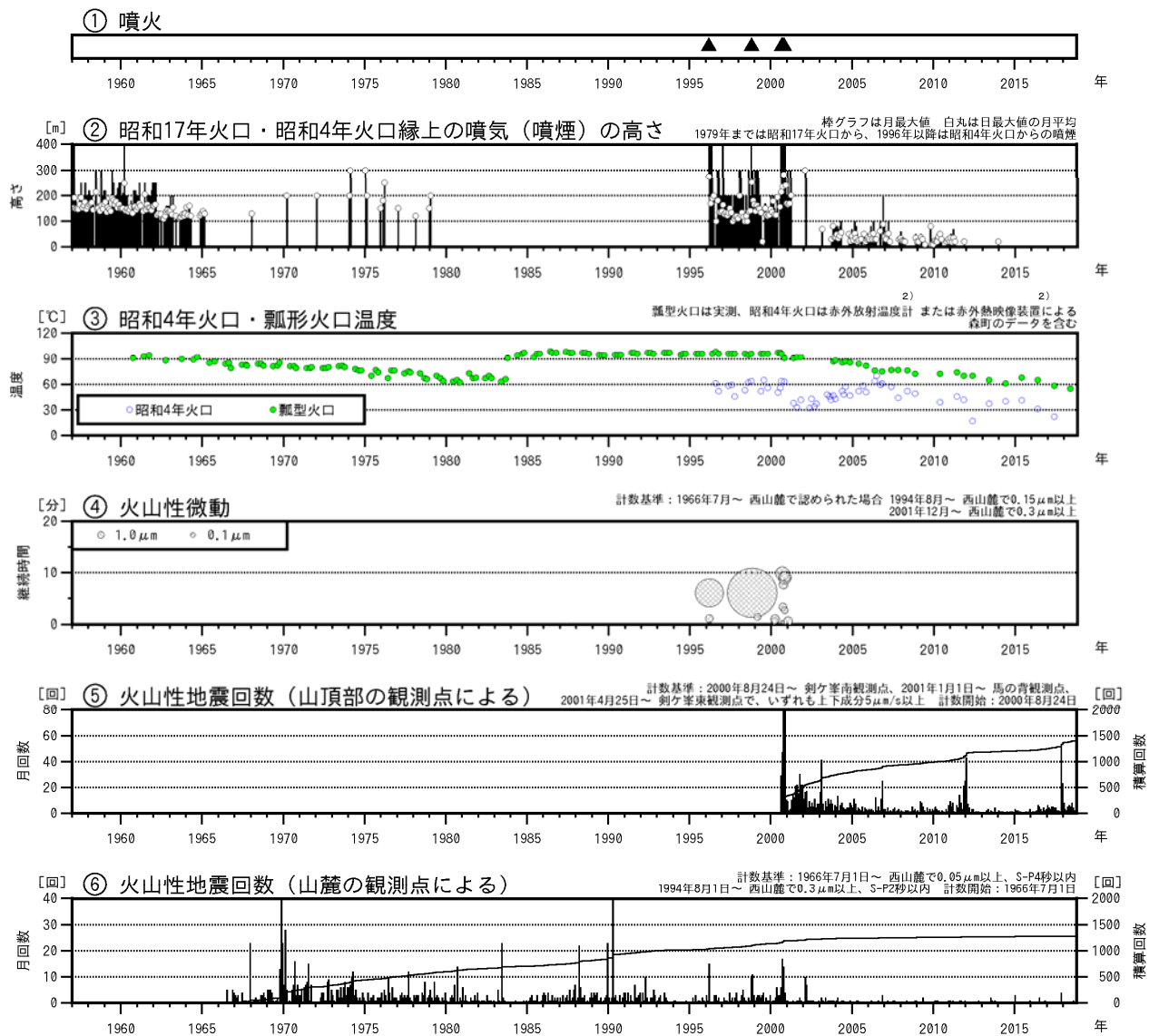


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図(1957年1月~2018年10月)

2) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

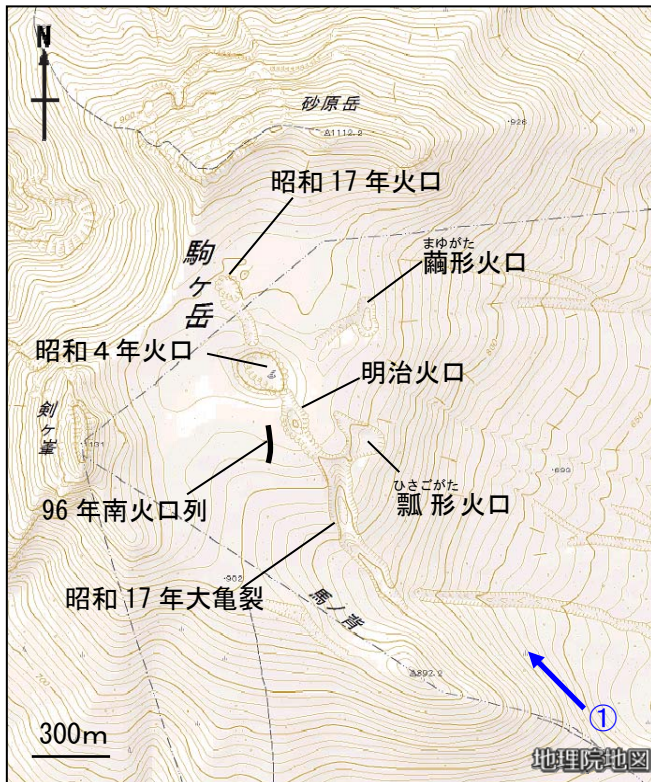


図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真の撮影方向 (矢印)



図3 北海道駒ヶ岳 火口原の状況
南東側上空 (図2の①)
から撮影

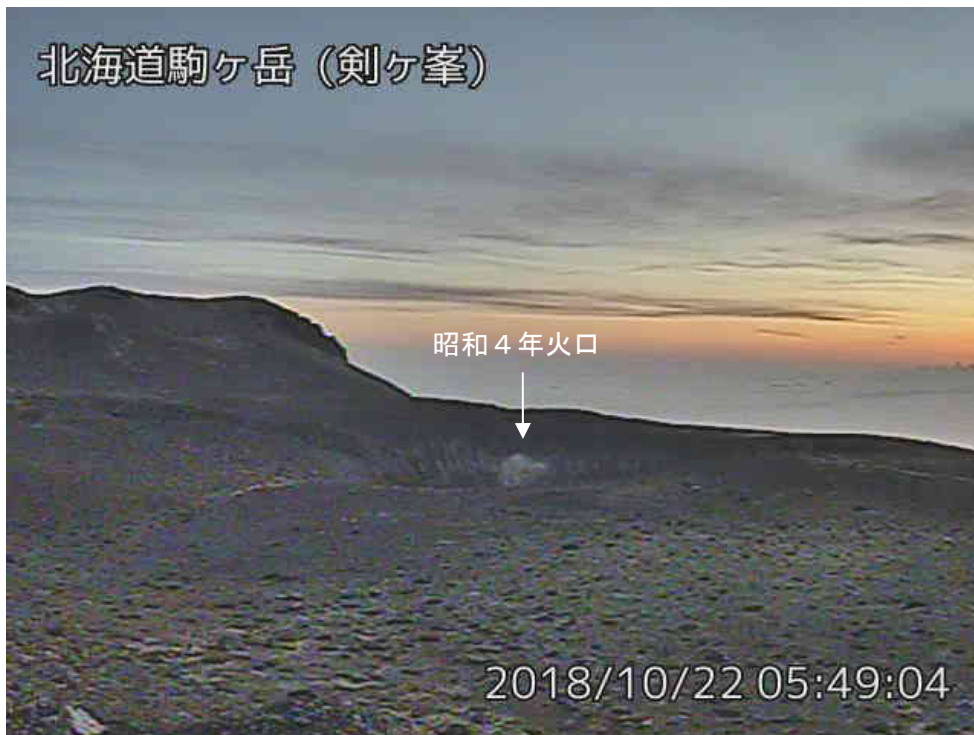


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口で確認されたごく弱い噴気
(10月22日、剣ヶ峯監視カメラによる)

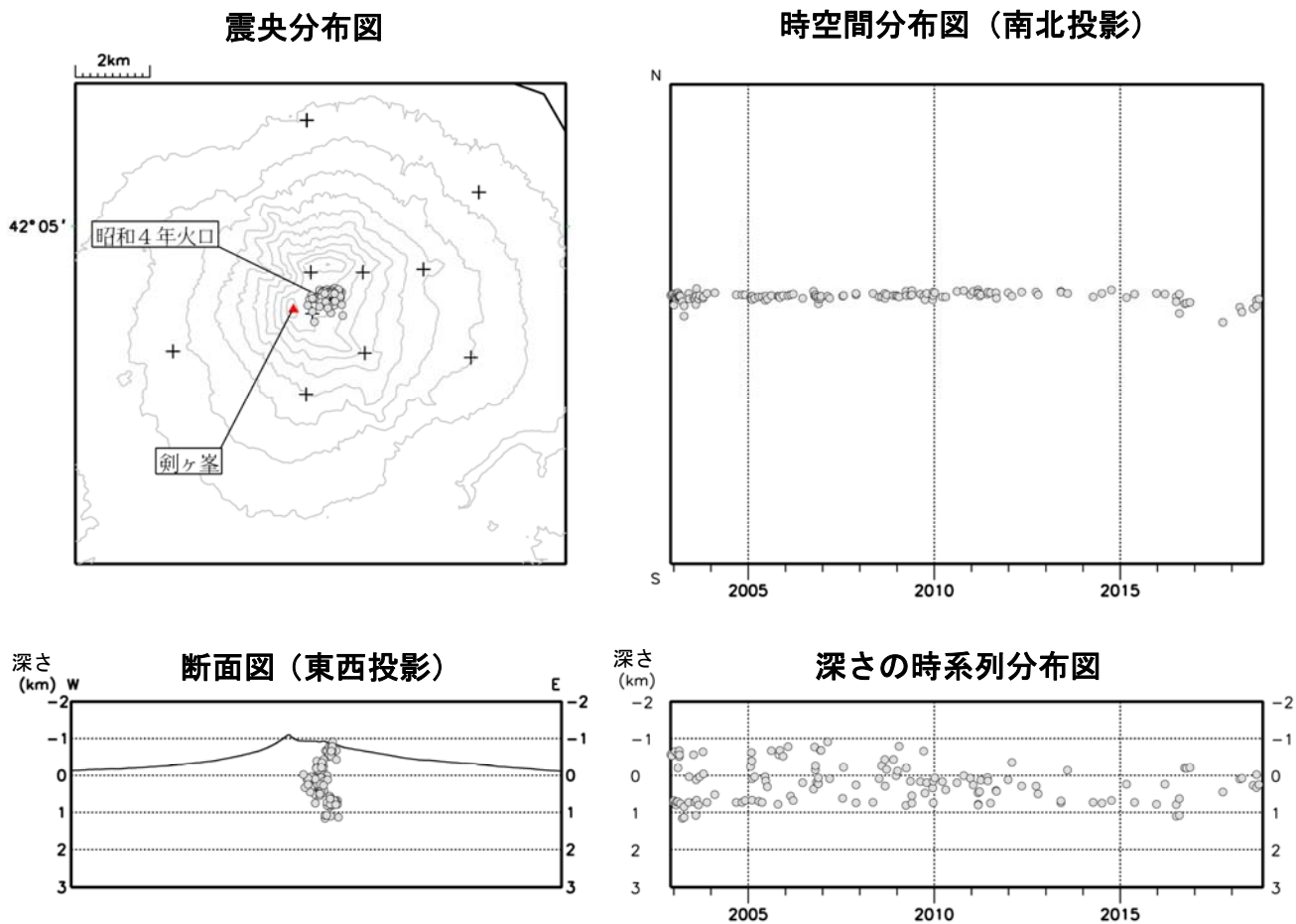


図5 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布 (2002年12月~2018年10月)

+印: 地震観測点

・今期間、震源が求まった地震はありませんでした。

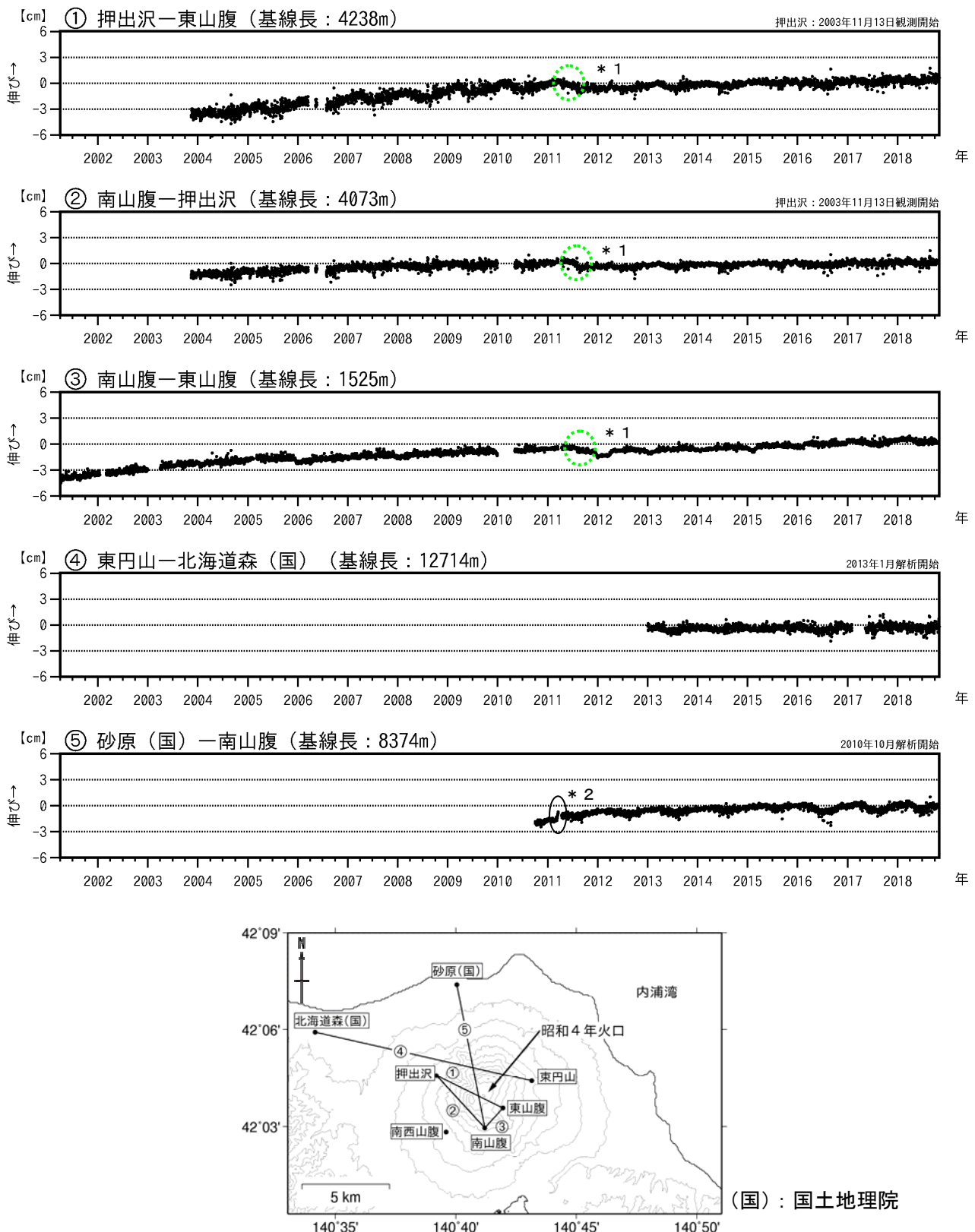


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化(2001年4月~2018年10月)及び観測点配置図

GNSS基線①~⑤は観測点配置図の①~⑤に対応しています。

GNSS基線の空白部分は欠測を示します。

①~③の緑点線円内の変動(*1)は、機器更新によるものです。

2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

- ・⑤の黒楕円内の変動(*2)は、2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません。

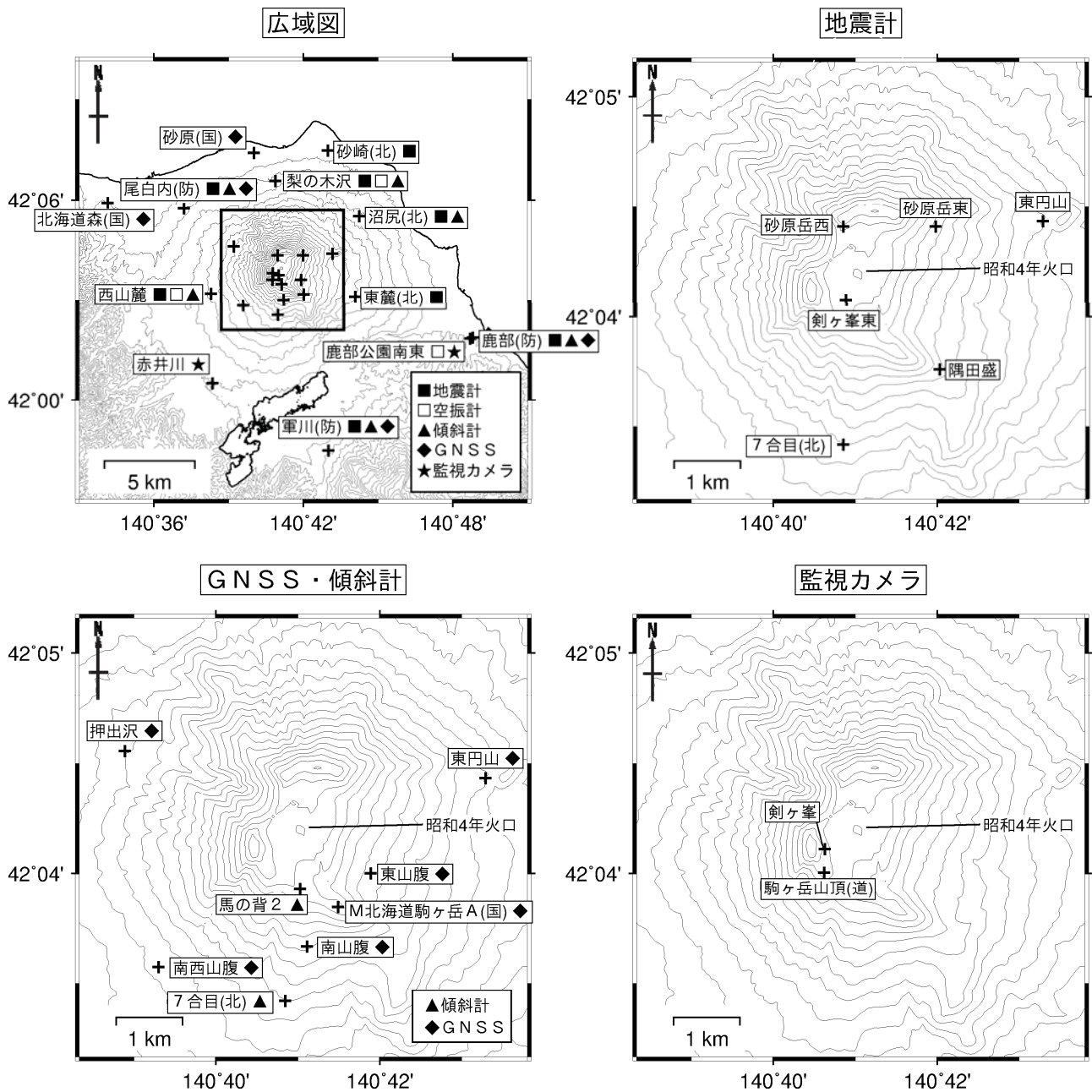


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道